

「嚥下通信」 Vol.8

認知症は食欲不振や飲み込む力の低下などを引き起こします。

今回は認知症の中でも、アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の、主な症状と食事時の対応をご紹介します。



アルツハイマー型認知症

☆主な症状

- 見当識障害：日付や時間、場所が分からなくなる
- 記憶の障害：新しいことや最近のことが覚えられない
- 注意障害：集中力の低下



☆食事時の特徴とその対応

- 食べたことを忘れる ⇒ 次の食事の時間を示しておく
- 食物を見落とす ⇒ 食器の数を減らす、目立つ食器を利用する。
- 食事に集中できない ⇒ 刺激の少ない環境で食事をしてもらう。
(例：テレビを消す、カーテンを閉める)
- 食事に拒否がある、うまく使えない ⇒ なじみの食器で食事提供する



レビー小体型認知症

☆主な症状

- 時間帯や日によつての食思のムラがある
- 幻視：実際には存在しない虫や動物、人が見える
- パーキンソニズム：ふるえ、動作が遅くなる、筋肉のこわばり、姿勢を保てない
- 睡眠行動障害：寝ている間に大声を出す、手足をバタバタ動かす

☆食事時の特徴とその対応方法

- 食べたり食べなかったりとムラがある ⇒ 生活リズムに合わせた食事時間の調整
- 嚥下機能の低下（ムセがみられる） ⇒ 食物形態の調整、水分にとろみをつける
- 食器の様子が虫に見えて食べない ⇒ 模様の無いシンプルな食器を使う
部屋の照明を明るくする

